

富野天神宮〔長池村の西富野民居の良林の中にあり。又御靈社本社の南にあり。已上土人生土神とす。例祭は九

月五日、神輿一基あり〕

水主社〔富野の西十町許、水主村民居のひがし森の中にあり。祭神延喜式神名帳に曰、久世郡水主神十座、並に大

月次新嘗就中水主坐なみにひなめなかんづく天照御魂神いますあまてらすみたまのしん三伴に同じうす、託らく山背大国魂命しろのくにたまのみことのしん神二座新嘗祭に預ると云々。社家説に曰、加

茂皇太神宮別雷わけいかづち神なりとぞ、神名帳に載る所と相違す。土人生土神とす、例祭は九月三日〕

白釈迦堂しろじやかだう〔水主村人家の間にあり。本尊釈迦仏しやかぶつは聖徳太子しやうとくの作にして、立像長五尺許。此本尊を土人白釈迦しやかと称る

は、中頃莊嚴さうごんおとろへしを、此所の民俗白色に彩るより、此号を称す。伝云ふ、此地いにしへは俊乗坊重源上人しゆんじようぼうちゆうげんの宅地にして、累代の本尊なり。上人南都大仏殿再建なんとだいぶつでんの為勸進回国くわんじんくわいこくのときは此所より発足ありしとなり〕

十六松じふろくのまつ〔長池ながいけの南大和街道やまとの東側にあり。いにしへは大木の松十六本あり、今纔に残る〕

椎尾山

〔中村の坤市野辺の東北にある山なり。むかし光明山寺此所にあり。前編に見へたり〕

椎尾瀧

〔同所山中にあり、一名唐櫃瀧ともいふ〕

梵天宮

〔市野辺の南多賀村卯辰の間山上にあり。豎額鳥居にあり。梵天大王祭神詳ならず。是則延喜式に載る高神

社是なり。今の社号土人誤り来れると見へたり。此所の生土神とす、例祭九月三日〕

地藏池

〔玉水の北堤のひがしにあり、名義詳ならず。中頃池の辺に石地藏を安置せし故なりとぞ〕

玉水井

〔長池より南一里半にあり、前編に著しぬれどなほこゝに補遺す。玉水里北の端路のかたはらにあるを玉水

といふ、是大に非なり。後人準作ると見へたり。実は此井より北の方路の中に南北にわたる橋あり、此橋の東十間ばかりに小藪の下に清泉あり、これを玉水といふ。傍に石垣今残れり、井は堙るといへども水は絶へず涌出す。いにしへは此所街道筋なり〕

色葉集曰 山城に井堤の水とてめでたき水の、みちつらにあるなり。其水の色を玉水といへり、ゆき、の人は是を手

むすびてのむなり。此水をほめて玉水といふなり。云々。和歌には玉の井とも詠り。

千載 冬くれば行手に人はくまねども氷ぞむすぶ玉の井の水 藤原成家

玉吟 さと人も今はみくさを打はらひ螢許ぞ玉の井の水 家隆

堀川百首 玉の井にさけるをみれば山吹の花こそ春のかざしなりけれ 師侍

井堤左大臣旧蹟 「玉水里の巽三町ばかり、石垣村の南上村のひがし山の麓にして、西南晴たる高壇の地あり、是

その所なりとぞ。土人上村台と称す。石垣柱石今なほ所々に残れり。同じき南の方に礎石あり。地の字を大門といふ、

是諸兄公の旧址にして井堤寺の地なるか」

家集 音にきく井堤の山吹みつれども蛙の声はかはらざりけり 貫之

家集 さかでやむ年はなけれど此春は井堤の山吹盛なりけり 忠見

井堤川 「あるひは玉川ともいふ。上井堤の卯辰の方山中より西にながれて、末は木津川に落入る。今玉水の南の川

是なり」

飛ぶほたる水も夜光の玉川や

薺 福